日本三弁才天・西国札所第三十番

竹生島 宝厳寺

Chikubu Island
Hogon-ji

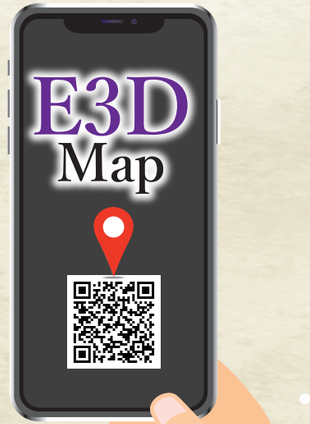
文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
令和２年度
文化財多言語解説整備事業

竹生島 宝厳寺
〒526-0124滋賀県長浜市早崎町1664−1
TEL／0749-63-4410
https://www.chikubushima.jp

飛びだす絵地図
E3D Map
POP UP 3D Map

飛びだす絵地図
E3D Map
POP UP 3D Map

1 QRコードをカメラもしくはQRコードリーダーに写します。



スマホやタブレット、
PCからご覧いただけます！

2 QRコードからE3Dmapを呼び出し、観たいスポットをタップしてご覧ください。

3 動画と建物内部を閲覧することができます。マップにあるボタンをタップしてご覧ください。

E3D Mapアイコン一覧

- スポット（場所）
- スポット移動
- 解説
- 紹介ビデオ
- 超高精細VR（360画像）
- 高精細画像
- 3Dモデル（立体画像）
- 写真

天女降り立つ浪漫の島　竹生島

竹生島は、日本最大の湖である琵琶湖に浮かぶ周囲2キロメートルの島である。そこには、弁才天と観音菩薩が祀られている宝厳寺と、都久夫須麻（つくぶすま）神社があり、島全体が国の名勝・史跡に指定されている。

宝厳寺の歴史は古く、神亀元年（724）、天照皇大神が聖武天皇の夢枕に立ったお告げにより、僧行基が派遣され堂塔を建立したのが開基と伝わる。

平安時代の後期から、西国三十三所観音霊場の札所として位置づけられ、室町時代には第三十番札所として確立した。

一方で、地元民からは弁才天の島として信仰され、８月15日に行なわれる弁才天の祭礼蓮華会（れんげえ）では、竹生島がある浅井郡の住民が頭役（とうやく、当番）をつとめる。

室町時代には、将軍や近江国の守護六角氏や京極氏の帰依を受け、戦国時代には小谷城主であった浅井氏三代も篤く信仰した。

鎌倉時代から室町時代にかけて、数度にわたって火災や地震、それに台風などによって建造物を失った。

特に、元亀３年（1572）7月２４日に織田信長は、明智光秀を大将として派遣し、竹生島を大筒（おおづつ）や大砲で艦砲射撃したことによって、伽藍の多くを失った。

その後、慶長７年（1602）から翌年にわたり、豊臣秀頼の命で、片桐且元が奉行となり、伽藍の再興がなされた。これが、現在の竹生島宝厳寺の基礎となる姿である。

昭和17年（１９４２）、伽藍の最上部に弁才天堂が建立され、現在の境内景観が確立した。

なお、竹生島にはタブノキやスダジイを主とする常緑広葉樹が広がっており、タブノキ林は滋賀県の天然記念物に指定されている。

唐　門

宝厳寺唐門は檜皮葺で、観音堂の入口に建ち、国宝に指定されている。

唐破風下や、扉の桟唐戸（さんからと）には、極彩色の華麗な彫刻をはめ込み、日本の桃山建築の代表作となっている。

この唐門は宝厳寺観音堂・舟廊下（渡廊）と共に、もとは秀吉時代の大坂城の極楽橋であったと考えられている。

秀吉没後の慶長5年（1600）に、大坂城の本丸北側と二の丸をつなぐ極楽橋を京都にあった豊国廟に移築し、その後、慶長７年（1602）になって、徳川家康の命により豊国廟から竹生島へ移築された。

唐門・観音堂

観音堂

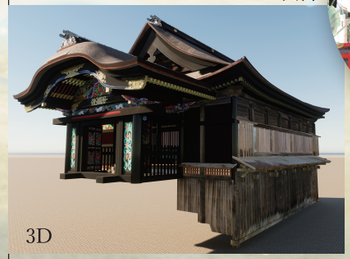
観音堂は唐門の東に繋がる正面５間、側面４間の建物で、檜皮葺、重要文化財に指定されている。

「清水の舞台」のように、崖より建物が突出し、床を柱と貫（ぬき）で支えた懸造（かけづく）りとなっている。

唐門との意匠の統一性が見られる所から、慶長7年（1602）から翌年にかけて、唐門と同時に豊国廟から移築されたものと考えられる。

飛びだす絵地図
E3D Map
POP UP 3D Map

竹生島 宝厳寺



3D

内陣

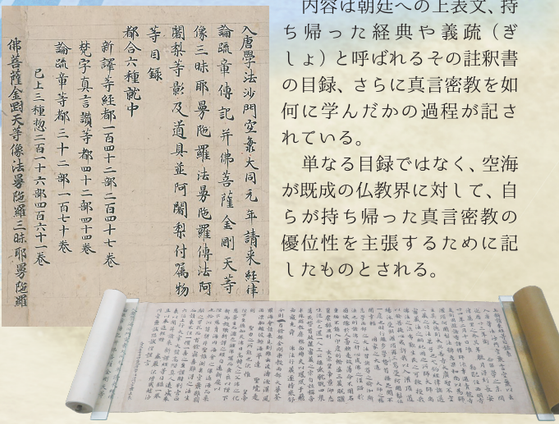
外陣

空海請来目録

本書は入唐した空海が、大同元年（806）10月22日付けで、大宰大監（たざい・だいじょう）高階真人（たかしなのまひと）に託して、朝廷に差し上げた目録で、重要文化財である。

内容は朝廷への上表文、持ち帰った経典や義疏（ぎしょ）と呼ばれるその註釈書の目録、さらに真言密教を如何に学んだかの過程が記されている。

単なる目録ではなく、空海が既成の仏教界に対して、自らが持ち帰った真言密教の優位性を主張するために記したものとされる。



駿河倉印

この印は、奈良時代の駿河国（静岡県西部）の正倉（しょうそう）の印で、重要文化財である。

古代の法律「律令」の「令」の規定にある諸国印（例えば駿河国印）と同じ大きさで、２寸（約６センチ）角。書体は「正倉院文書」に押された駿河国印と同じ。

銅製で印面は方形、周囲に幅の狭い輪郭がめぐっている。手で持つ鈕（つまみ）の部分は、幅の広い撥（ばち）形につくられ、鈕孔（ちゅうこう）と呼ばれる穴は設けられていない。

陽刻の印文は二行で、一行目が「駿河」、二行目が「倉印」と篆書で鋳出している。鋳上がりと保存状態が良好で、書体も堂々とした大和古印の風格を示す逸品といえる。

3D

宝物殿